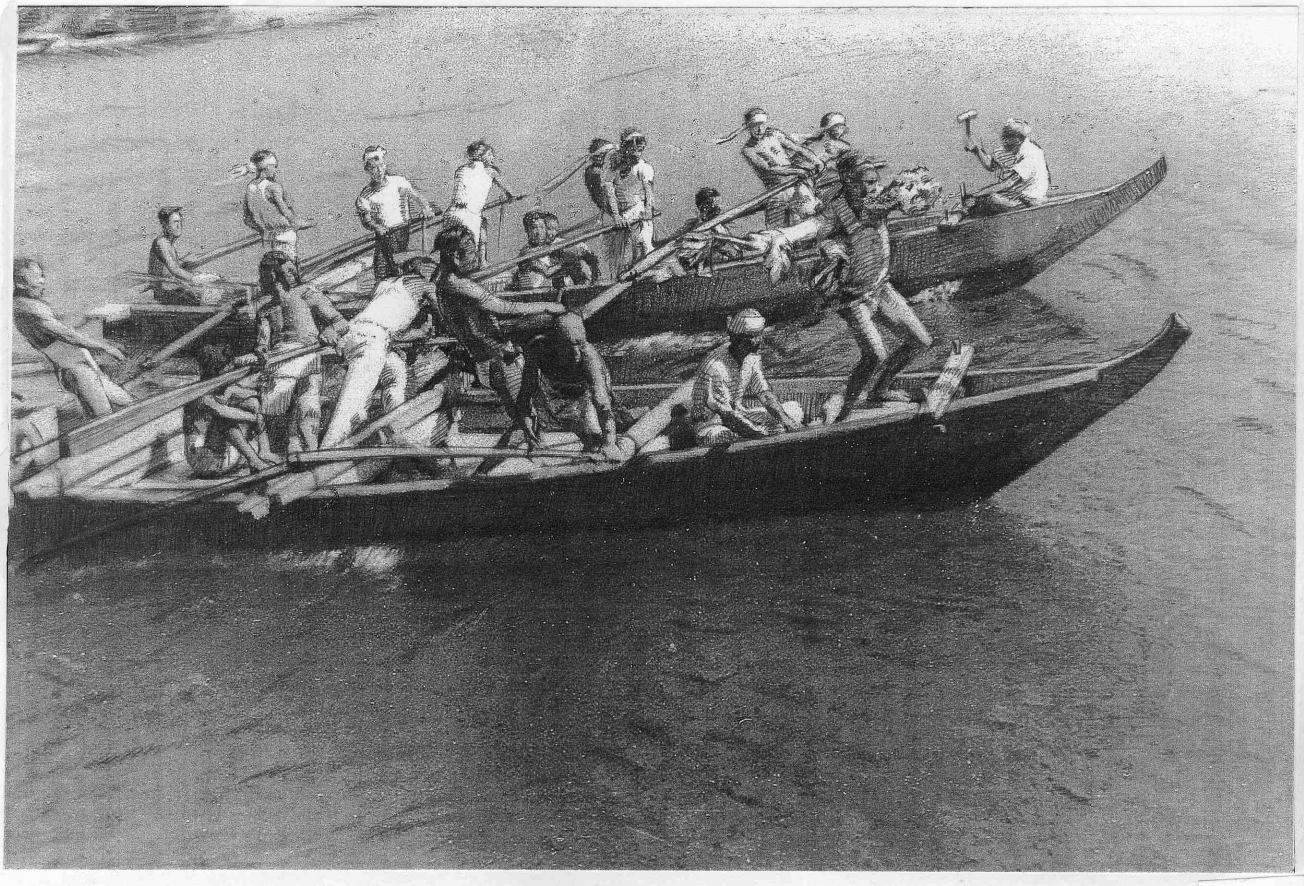
回覧

文化と交流

第6号(2005年4月号)

発行／周防大島文化交流センター
〒742-2512　山口県大島郡周防大島町大字平野417-11
ホームページアドレス　http://www.towatown.jp/koryu-center/koryu.htm
電話・ファックス　0820-78-2514
図書室専用の電話　0820-78-0629



対馬佐須奈のフナグロ（舟競争）。昭和二〇年代

「離島」テーマにパネル展

周防大島文化交流センター宮本展示室では、三月二一日から「宮本常一の見た離島」と題する常設展を始めました。昭和三〇年代から四〇年代にかけての全国の離島の姿を、二五枚のパネルで展示しています。

宮本は昭和二八年の離島振興法制定に尽力し、島の人々とともに島の暮らしの向上をはかりました。現在、島の港や道路は整備され、電気や水道が通り、当時と比べ生活環境は改善されましたが、ここにいたるまでには、各地で多くの人々が島をよりよくしようと目に見えない努力を重ねてきました。

この展示のもとになった著作は、『日本の離島』（未来社、昭和三五年）、『日本の離島　第二集』（未来社、昭和四一年）、『離島の旅』（人物往来社、昭和三九年）の三冊です。特に『日本の離島』は、昭和三六年にエッセイストクラブ賞を受賞し、宮本の名が広く知られるきっかけとなりました。

パネルで紹介している主な島は、北海道の島々（礼文島・利尻島・焼尻島・天売島）、山形県飛島、新潟県佐渡、石川県舳倉島、島根県隠岐、伊豆大島、愛知県佐久島、岡山県北木島、山口県周防大島、山口県見島、大分県姫島、長崎県対馬、長崎県五島、鹿児島県種子島、薩南と琉球の島々など、日本全国に及びます。

これらは宮本が歩いた島のほんの一部ですが、今回の展示が、離島の歴史や文化について、また地域づくりに尽力してきた島の人々について、広く知っていただくきっかけになれば幸いです。

皆さんのご来館をお待ちしています。

＊その他の新たな展示については裏面に掲載

上京された際には、お立ち寄りを

「宮本常一の見た府中」展

宮本常一が撮影した約九万枚の写真に注目が集まる中、東京都府中市にある「郷土の森博物館」で、「宮本常一の見た府中」展が開催されることになりました。

宮本は昭和三六年から亡くなるまでの約二〇年間府中市に住み、市内を撮影した写真を千枚以上も残しました。

昭和三〇年代から五〇年代にかけての市内の変貌を辿るこの企画展は、宮本の写真を使った展示会としては、交流センター以外で初めての試みとなります。

上京された際には、お立ち寄り下さい。

▼期　間
四月二九日(祝)～六月二六日(日)

▼開館時間
午前九時～午後六時
(入館は午後四時まで)

▼観覧料
大人二〇〇円、子供一〇〇円

▼お問い合せ先
府中市郷土の森博物館
東京都府中市南町6-32
TEL 042-368-7921

なお、「郷土の森博物館」では特別展「馬場大門　ケヤキ並木の謎」展も開催します。この展示会でも、宮本が撮影した府中市内のケヤキ並木の写真を七点ほど公開しますので、あわせてご覧下さい。

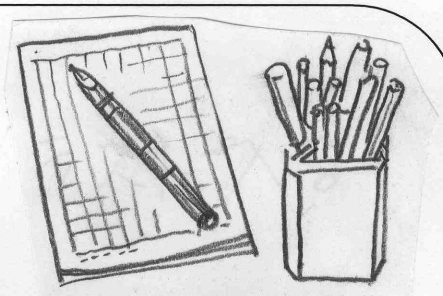
▼期　間
四月二九日(祝)～六月一二日(日)

「沖家室の一本釣り漁と家室針」展示開始

四月から交流センター宮本展示室の一角に「沖家室の一本釣り漁と家室針(かむろばり)」の展示が加わりました。

沖家室周辺が好漁場となった理由がひと目でわかる潮の流れの図解に始まり、沖家室でとれる九五種類もの豊富な魚介や海藻、一本釣りの仕掛けやエサなどについて、八枚のパネルで解説しています。

また、沖家室で独自に製造されてきた「家室針」をつくるための道具類も展示しています。



『宮本常一農漁村採訪録』

4月刊行決定

交流センターでは、宮本常一の聞書きノートを活字化した『宮本常一農漁村採訪録』シリーズの刊行を始めます。

４月に刊行する第一巻は、昭和２４年から２５年にかけて、大阪府下８ヵ所の漁村で記録された聞書きノートをもとにしています。

宮本の聞書きノートは、全国各地の生活や文化を今に伝える貴重な一次資料です。

ぜひ、ご一読を（**定価は1,000円、周防大島文化交流センターで販売いたします**）。